

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	哲学Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0095			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	生物応用化学科			対象学年	5		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	「知性改善論」スピノザ著 畠中尚志訳 (岩波文庫)						
担当教員	奥 貞二						
到達目標							
「知性改善論」を熟読し、哲学者スピノザの思想を理解する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	ある哲学書を手がかりに、哲学を始める具体的状況、動機を応用的に理解する。			ある哲学書を手がかりに、哲学を始める具体的状況、動機を基本的に理解する。		ある哲学書を手がかりに、哲学を始める具体的状況、動機を理解できない。	
評価項目2	人生の目的である、幸福を求める具体的道筋を応用的に理解する。			人生の目的である、幸福を求める具体的道筋を基本的に理解する。		生の目的である、幸福を求める具体的道筋を理解できない。	
評価項目3	日本と西欧の文化、考え方の違いを、哲学を通じて応用的に理解する。			日本と西欧の文化、考え方の違いを、哲学を通じて基本的に理解する。		日本と西欧の文化、考え方の違いを、哲学を通じて理解できない。	
評価項目4	哲学書を正確・精密に読むことにより、自分の生き方の応用的な参考にする。			哲学書を正確・精密に読むことにより、自分の生き方の基本的な参考にする。		哲学書を正確・精密に読むことにより、自分の生き方の参考にできない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	スピノザの「知性改善論」を精読しながら、哲学を始め続けていく方法を理解し、今後の自分の生き方に活かせることを目標とする。						
授業の進め方・方法	<授業の内容> ・第1週～第15週までの内容は、学習・教育目標（A）〈視野〉、〈技術者倫理〉と、JABEE基準1(1)(a), (b)に対応する。 ・授業は講義形式で行う。講義中は集中して聴講する。 ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする。						
注意点	<到達目標の評価方法と基準> 下記授業計画の「到達目標」を網羅した中間試験、定期試験を1回ずつ実施する。他に休暇中に課題レポートを課し、合わせて目標の達成度を評価する。各「到達目標」に関する重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。 <学業成績の評価方法および評価基準> 前期中間試験、前期末試験を80%とし、課題レポートを20%で評価する。ただし、前期中間試験、前期末試験とも再試験を行わない。 <単位修得要件> 前期中間試験、前期末試験、提出課題等の結果、学業成績で60点以上を取得すること。 <あらかじめ要求される基礎知識の範囲> 「倫理・社会」で学んだ基礎知識が必要である。出来れば「哲学Ⅰ」の学習内容を理解していることが望ましい。 <レポートなど>履修者全員に課題レポートを課す。 <備考>その都度取り上げる参考文献は、目を通しておくことが望ましい。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	シラバスの説明とスピノザ哲学の特徴		1. シラバスの説明とスピノザ哲学の特徴を理解できる。		
		2週	スピノザの著作の概要 以下「知性改善論」のページ数		2. スピノザの著作の概要を理解できる。		
		3週	人間が通常求めている善について p11-16		3. 人間が通常求めている善について理解できる。		
		4週	真実最高の善について p16-19		4. 真実最高の善について理解できる。		
		5週	若干の生活規則 p20		5. 若干の生活規則を理解できる。		
		6週	知覚の4様式 p21-25		6. 知覚の4様式を理解できる。		
		7週	最高の知覚様式 p26-32		7. 最高の知覚様式を理解できる。		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	正しい認識方法 p33-40		8. 正しい認識方法 p33-40を理解できる。		
		10週	虚構された観念についてp41-48		9. 虚構された観念を理解できる。		
		11週	" p49-54		10. 虚偽の観念 p49-54を理解できる。		
		12週	虚偽の観念についてp55-63		11. 虚偽の観念についてp55-63を理解できる。		
		13週	疑わしい観念について p63-72		12. 疑わしい観念を理解できる。		
		14週	事物認識の二様について p72-77		13. 事物認識の二様について理解できる。		
		15週	永遠なる事物を認識する手段について p78-86		14. 永遠なる事物を認識する手段を理解できる。		
		16週	学年末テスト				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100

配点	80	20	0	0	0	0	100
----	----	----	---	---	---	---	-----